

2022年12月期 第1四半期決算説明資料

2022年5月13日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(証券コード6464 東証プライム市場)



TRANSFORM NEXT2023

Precision for a Changing and Sustainable world

精密加工技術で社会環境の変化・持続可能な社会に対応していきます

FY2022 第1四半期業績ハイライト

FY2021で起きた品質&在庫の課題を解消し、売上も順調な伸びを示す一方、エネルギー・原材料等のコスト増を吸収しきれず、利益は伸び悩み

売上

- 半導体不足の影響などにより自動車生産台数が減少している一方、工作機械の急回復により、売上収益は前年同期及び前四半期を上回る186億円。為替影響を除き前年同期比+4.9%
- 成長戦略の売上収益も、前年同期及び前四半期を上回る34億円

利益

- 売上増・コスト改善などによる利益増に取り組んだが、エネルギー・原材料等のコスト増により、営業利益は15億円（進捗率は2月ガイダンス※の18%）

配当

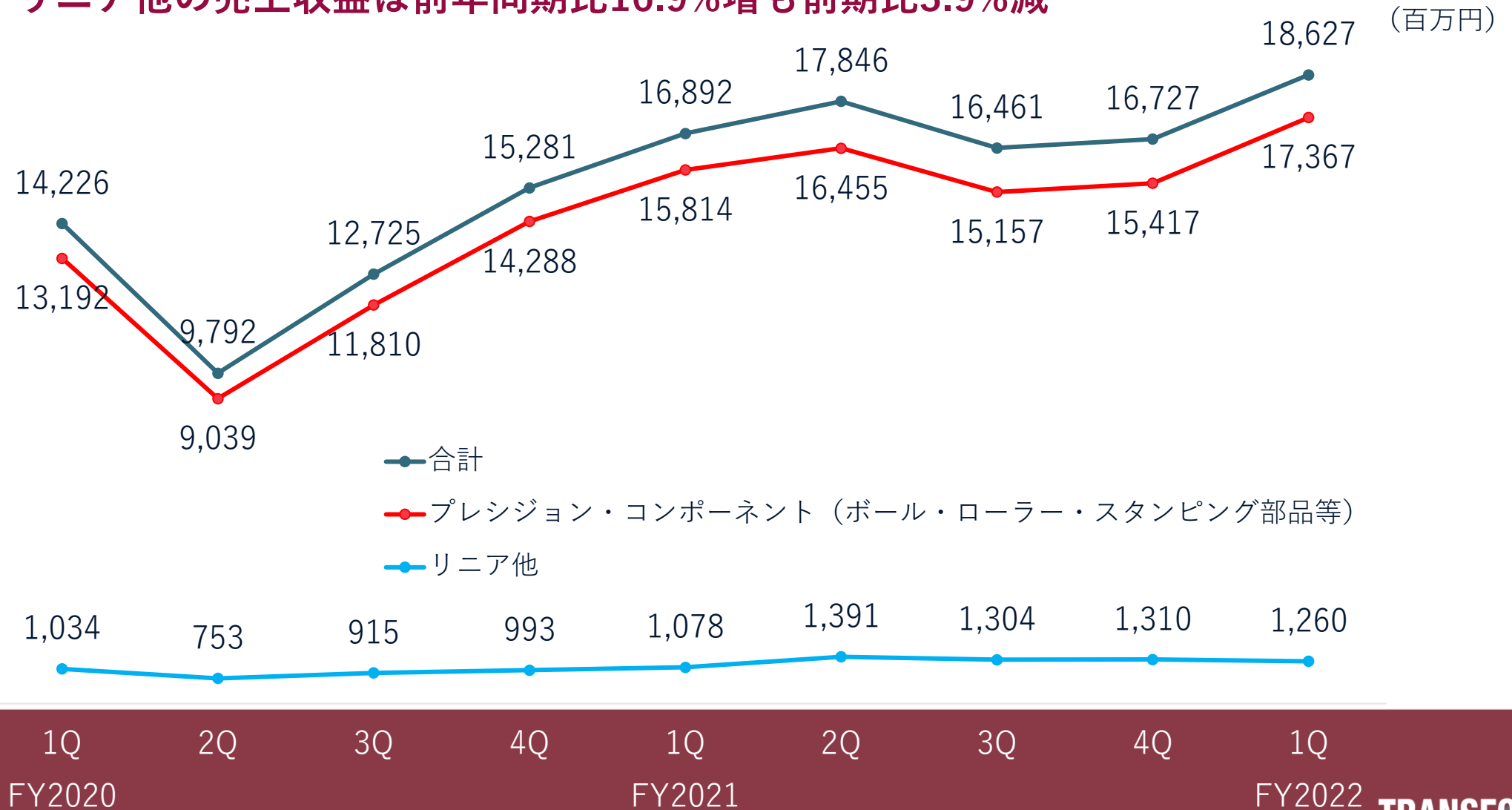
- 年間配当額は、ガイダンス通り30円/株の予定

“欧州ローラーの構造改革に係る費用30億円を除く”

TRANSFORM
NEXT2023

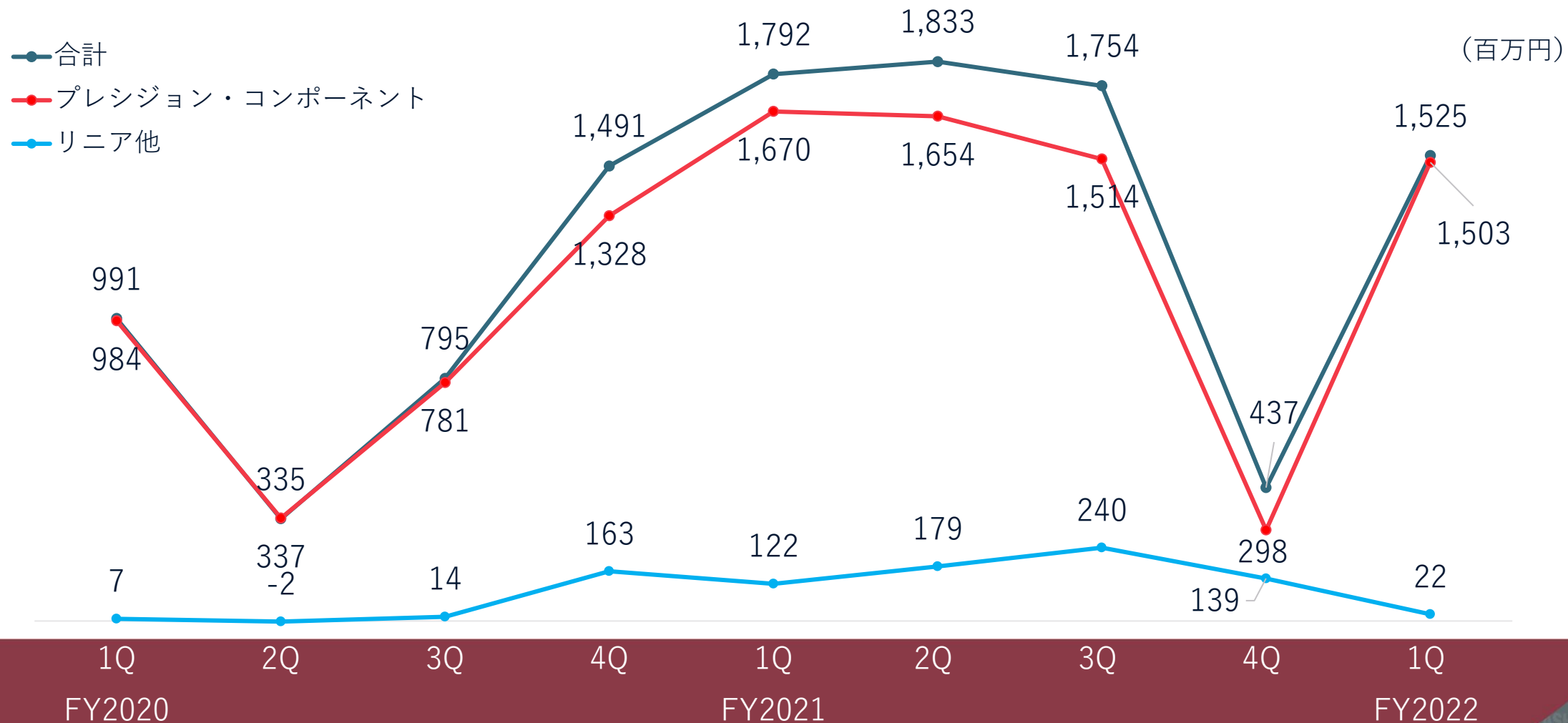
四半期 連結売上収益推移

プレジジョン・コンポーネントの売上収益は前年同期比9.8%増、前四半期比12.7%増
リニア他の売上収益は前年同期比16.9%増も前期比3.9%減



四半期 連結営業利益推移

プレジジョン・コンポーネントの営業利益は前年同期比10.0%減
リニア他の営業利益は前年同期比81.8%減



FY2022 第1四半期連結業績（前年同期比）

為替影響を除いた売上収益は前年同期比4.9%増、営業利益は同18.9%減

(百万円)

	FY2021	FY2022			
	1 Q	1 Q			
	実績	実績	為替影響	増減額 ^{※1}	増減比 ^{※1}
売上	16,892	18,627	902	834	4.9%
営業利益	1,792	1,525	72	▲ 339	▲ 18.9%
対売上(%)	10.6%	8.2%	—	—	—
EBITDA	2,620	2,406	118	▲ 332	▲ 12.7%
税前利益	1,772	1,438	61	▲ 395	▲ 22.3%
当期利益	1,327	1,045	44	▲ 327	▲ 24.6%

※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く

FY2022 第1四半期セグメント・地域別売上（前年同期比）

	FY2021	FY2022			
	1Q	1Q			
	実績	実績	為替影響	増減額 ^{※1}	増減比 ^{※1}
グループ連結	16,892	18,627	902	834	4.9%
プレジジョン・コンポー ネントセグメント ^{※2}	15,814	17,367	874	679	4.3%
日本	3,109	3,286	—	177	5.7%
北米	3,295	3,384	311	▲ 222	▲ 6.7%
欧州	5,961	6,489	132	396	6.6%
中国	3,037	3,486	406	43	1.4%
アジア（除中国）	413	722	26	283	68.5%
リニア他セグメント	1,078	1,260	28	154	14.3%

(百万円)

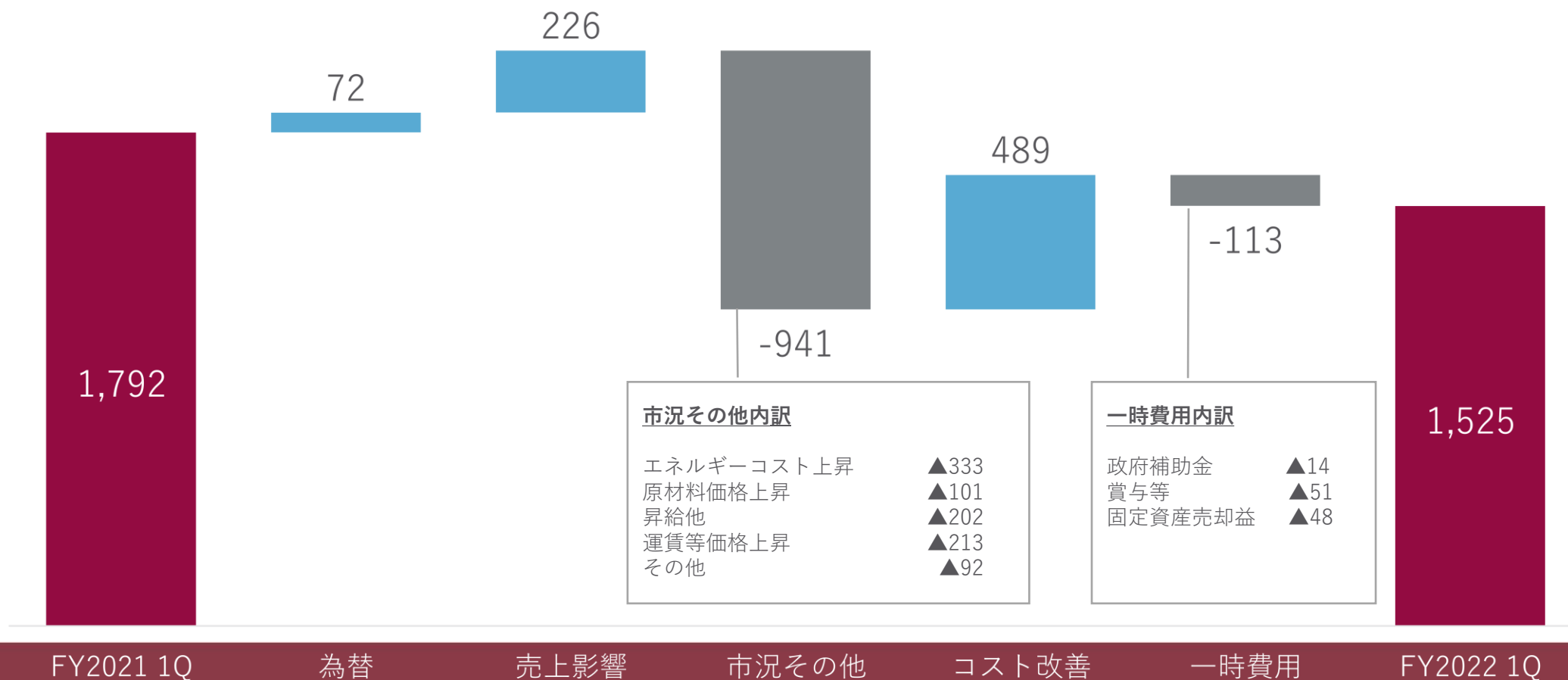
※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く

※2 セグメント間収益を除く

FY2022 第1四半期 営業利益増減要因

売上が増加する一方で、エネルギー・原材料コスト増等の影響により、対前年同期比営業利益は14.8%減の1,525百万円

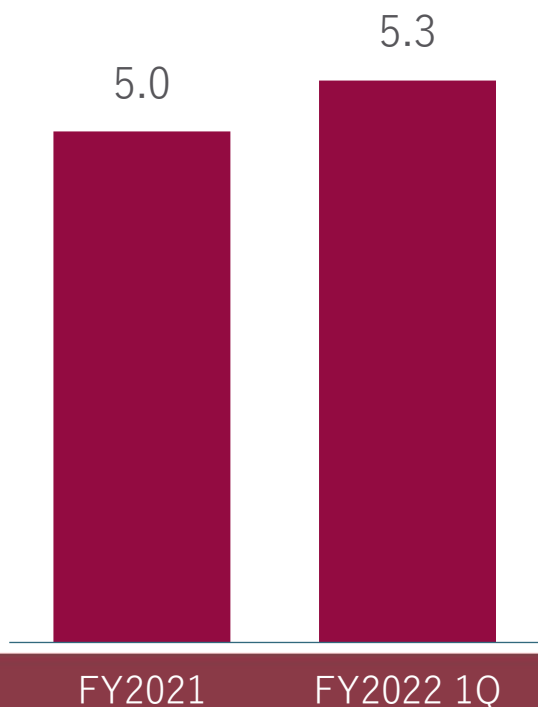
(百万円)



BS / CF における業績

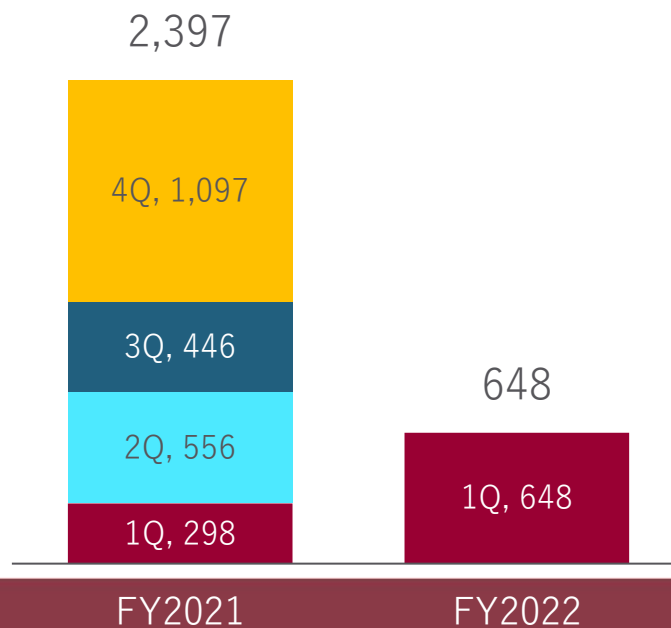
棚卸資産回転月数(月)

第2四半期以降の販売見込みに対する備蓄在庫増



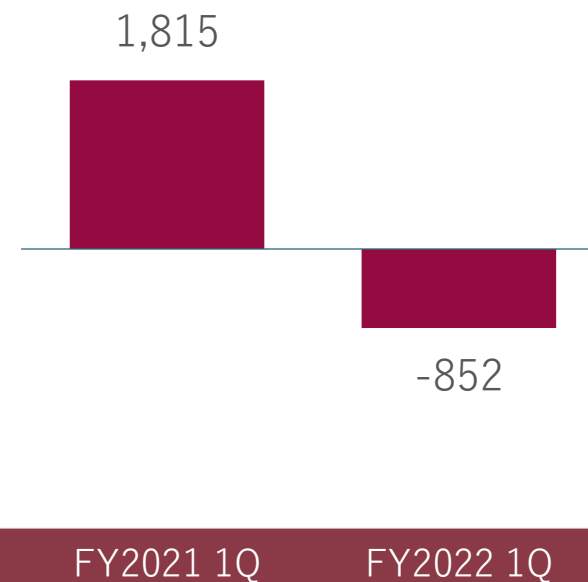
設備投資額(百万円)

成長に向けた設備投資を推進中



フリーキャッシュフロー(百万円)

成長に伴う在庫・設備投資増



成長戦略の進捗（FY2022 第1四半期）

3つの成長戦略では、各戦略部門とも前年同期比大幅増
セラミックボール・アジア地域での拡販とも7四半期連続増

(百万円)

セラミックボール

メディカルデバイス

アジア地域での拡販

(除く中国、セラミック)

YoY +455
+28.5%

QoQ +157
+8.3%

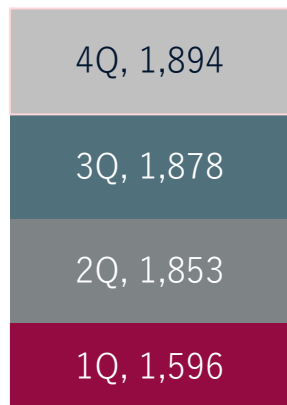
YoY +53
+21.2%

QoQ ▲18
▲5.6%

YoY +167
+18.9%

QoQ +142
+15.6%

7,221



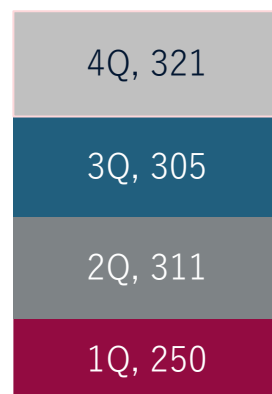
FY2021

2,051



FY2022

1,187



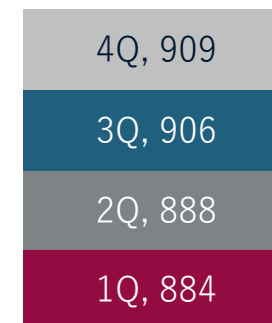
FY2021

303



FY2022

3,587



FY2021

1,051



FY2022

TRANSFORM
NEXT2023

サステナビリティへの取り組み

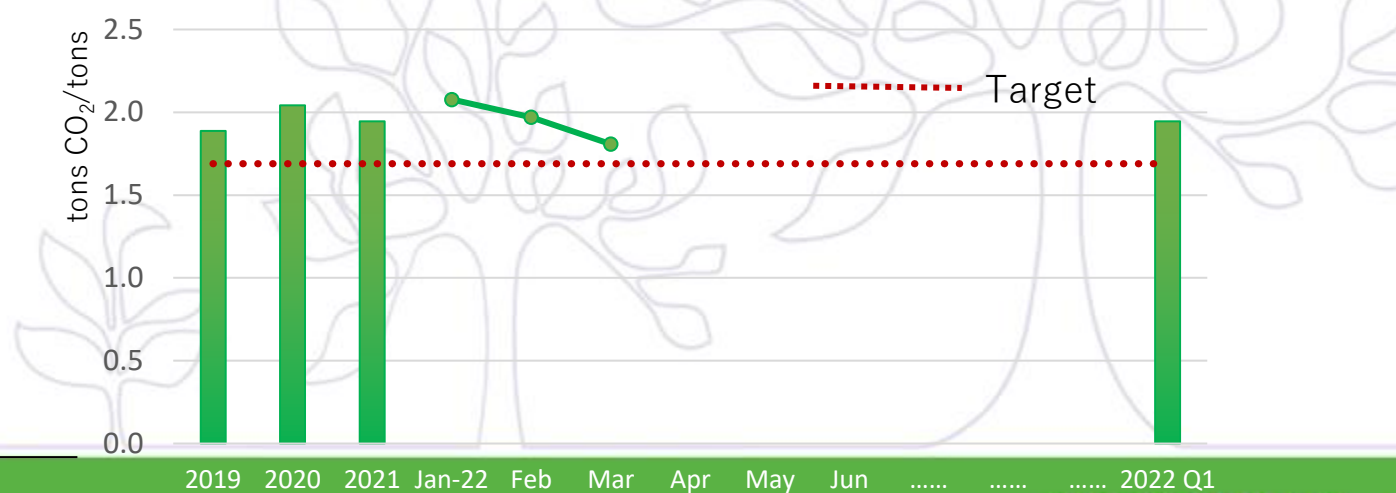
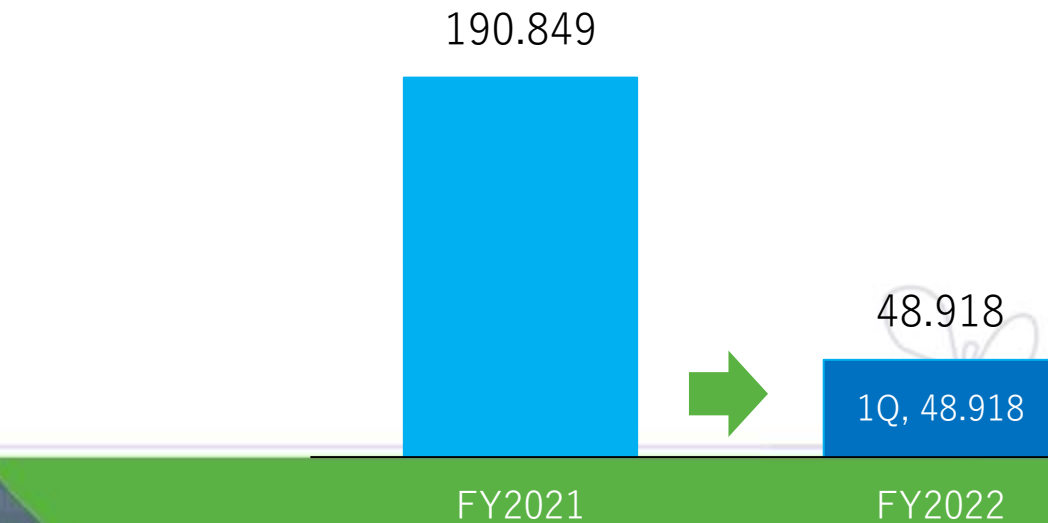
CO₂ 排出量削減目標



- 2030年までに、2019年比▲27.5%トンのCO₂削減
- 2050年までのカーボンニュートラル達成を目指す

182.923 TON CO ₂	166.276 TON CO ₂	190.849 TON CO ₂	169.204 TON CO ₂	164.631 TON CO ₂	160.058 TON CO ₂	155.485 TON CO ₂	150.911 TON CO ₂	146.338 TON CO ₂	141.765 TON CO ₂	137.192 TON CO ₂	132.619 TON CO ₂
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

当社グループ目標



ESG戦略

TRANSFORM
NEXT 2023

免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。